

# 南希タイムズ

## 個性がたくさん!

# 手作りハガキ新聞

### ～人気の職業は～



一年四組小幡緋空さんの作品



一年一組梅本菜那さんの作品



一年一組 梅本菜那さん

職業講話が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。とても楽しみにしていた職業講話ですが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。しかし、私たちは事前学習で一人ひとり異なる職業を調べ、ハガキ新聞にまとめたので大丈夫です。

## 職業選びの 素敵なエピソード

二月二日(火)一年生では、職業講話が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。とても楽しみにしていた職業講話ですが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。しかし、私たちは事前学習で一人ひとり異なる職業を調べ、ハガキ新聞にまとめたので大丈夫です。

最初に、ウェディングプランナーを選んだ理由をお聞きすると「お母さんの友達がやっていたので素敵なお仕事だと思ったから」とお答えいただきました。

次に、魅力をお聞きしたところ「毎日の幸せに立ち会えるのは自分も幸せな気分になれる」とお答えいただきました。ハガキ新聞のデザインも素晴らしいですが、ウェディングプランナーを選

横浜市立南希望が丘 中学校 美術部 編集長 若松 彩花 副編集長 松村 春奈 記者 八木橋 小島、中泉(文)、谷藤、小野寺、中泉(心)、佐藤(妃)、佐藤(奏)、勝見、早川

## 新聞コンクールで 全国七位

二月八日「第七〇回全国小中学校新聞コンクール」において「努力賞(七位相当)」と一月十三日(水)に「第三十一回横浜市中学校新聞コンクール」において「最優秀賞」を私たちが美術部パソコン班が作成した「南希タイムズ」で頂くことができました。

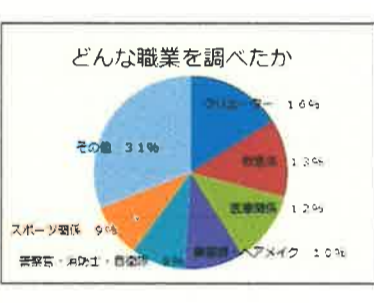


美術部パソコン班集合!!

今回、このような賞を頂くことが出来たのも、アンケートやインタビューに答えてくださった生徒の皆様や先生方の協力のおかげです。本当にありがとうございます。

これからも私たちパソコン班は「みんなで仲良く」を目標に掲げると同時に、皆様にとって楽しく、読みやすい新聞作成に向け日々精進してまいります。

どうかよろしくお願いたします。(佐藤(妃))



「貝合わせ」とは、二枚貝をふたつに分けて、その片方を探すと遊ぶ遊びです。やがて人々のあいだでは、貝に歌や絵を書いて遊ぶようになりまして。

この遊び方はかなり現在の遊び方に近いことがわかります。戦国時代になると、百人一首が「かるた」として遊び始められます。

他にも歌の歌行にも面白い由来や意味があります。興味がある方はぜひ、調べてみてはいかがでしょうか。(中泉(心))

## 百人一首の歴史

小学校ではなかった行事「百人一首大会」。

和歌を詠み、競い合うというものでした。

やがてこれが「歌員」と呼ばれ、現在の「かるた取り」と同じように、貝の形をした上の句を詠んで下の句を取るといったものになります。

「かるた」を取り入れることにより、徐々に広まっています。

やがて「民用小倉百人一首」などが出版され、元禄時代の頃から一般庶民の間にも広がって「和歌かるた」と言え、「小倉百人一首」のことを指すようになりました。

節分に行う豆まきは、病気を厄払いに見立ててそれを追い払う儀式です。そして、節分には福豆と厄豆があります。

昔から福豆には霊力が宿り邪気を払うと考えられてきました。

また、豆まきを行うのは「年男」です。

本来年男は一家の主人をさしませんが、現在ではその年の干支に生まれた男性を年男と言い、年男や年女家族が豆をまきます。

皆さんも節分について家族と話したり自分で調べてみてはいかがでしょうか。(小野寺、佐藤(奏))

## 赤い羽根募金

一月十二日(火)から一週間、生徒会で赤い羽根募金が行われました。

そこで、今回は生徒会庶務の金子柚さんにインタビューをしてみました。

まず、赤い羽根募金で集まった金額をお聞きすると「一万七千六百円」とおっしゃっていました。

次に生徒会が赤い羽根募金を主催している目的をお聞きすると「この学校で何かあった時に被災地が少しでも早く復興できるように」

最後に全校の皆さんに一言お願いしたところ「募金してくれた方々ありがとうございます。来年もよろしくければお願いします」とおっしゃっていました。

今回、生徒会の活動で募金の大切さを知ることが出来ました。(若松)



生徒会庶務 金子 柚さん



百人一首練習の様子

## 春の花言葉

暖かくなり初め、たくさんのお花が咲く季節になりました。

皆さんは、春に咲く花の代表とも言えるチューリップの花言葉を知っていますか。

チューリップは、三月から五月の咲く、トルコ原産のユリ科・チューリップ属の花です。



色んなチューリップ

## 美術部の活動

私たち美術部は、三月二十四日(水)に行われる、合唱祭に向けて横断幕の制作をしています。

原案を二年生が中心となり二カ月前から考え、全員で絵具を作ったり、塗ったりと活動を行っています。(若松)



横断幕作成の様子

## 編集後記

このたびも南希タイムズをご覧頂きありがとうございます。今回は、百人一首の歴史や春の花言葉などをお送りしました。(若松)

# 南希中プチ個展



2年1組 鈴木 はる乃  
作品タイトル「大正時代～和服っていいよなあ～」  
私好みの和服です。皆さんにも和服の良さが伝わることを願います。



2年5組 山添 千遥  
作品タイトル「女」  
色を塗るのが大変でした。



2年3組 若林 千聡  
作品タイトル「卒業」  
三月は、三年生の方々が、卒業するので、感謝をこめて書きました。

あなたに  
伝えたくて

## テーマ

### 好きなことをして生きる

## 記者

松村 春奈

今回、私が気になった記事は「不登校経て 今後は研究テーマに」です。

この記事のテーマとなった石田まりさんは、幼い頃から自分の性別に疑問を持ちたり、好き嫌いが激しいなどがあり、学校に馴染めず不登校となりました。中学校も様々な理由で登校することができず、高校へ進学した石田まりさんに転機が訪れたのは定時制単位の高校へ進学した時でした。

制服も校則もなく、初めて学校を苦しいと思わなかったそうです。

さらに、高校一年生の時に「SSW(スクールソーシャルワーカー)」の仕事を知りました。

この仕事は自分の不登校の経験が生かせるのではないかと考えたので、SSWに必要な資格を取れる大学を探しました。

そして、二〇一四年に努力が実り一般受験で合格しました。今では大阪府立大大学院で「不登校児の健康問題」というテーマを研究しています。

この記事を読んで私は、自分の生きたいように生きていくことの大切さを実感しました。

私は周りの友達や先生方などに恵まれたおかげで、学校に通うことが苦しいと思ったり、学校に通うことが苦しいと思ったりはしていません。

この記事を読んで自分でも思っていたことが出てきました。

少くとも自分の好きなことが出来るように、一杯支えていきたいと思います。

また、この記事から学ぶことができた学校に通うことが出来たので、今の時代には様々な選択肢があると思います。

「無理やり食べさせられることもあり、給食の時間は苦痛だった。小学3年から不登校になった。環境を変えようと、私立中学を受験。第一志望は不合格で、第二志望に入学したが、自分のことを男性とも女性とも思えず、制服のスカートをはくのが嫌だった。人付き合いもしんどくて、1年の夏には登校しなくなった。

2年への進級に合わせて、公立中へ転校した。でも、学校という場が自分に合わないことに気づき、数日で不登校になった。

SSWに必要な資格が取れる大学を、全国から探した。通いやすい場所にキャンパスの雰囲気も重視した。高校2年の

勉強は好きだったので、定時制単位の高校へ進学した。制服や校則はない。学校を苦しむと思わないのは初めてだった。高校1年の時、問題を抱える子どもの支援をする「スクールソーシャルワーカー(SSW)」の仕事を知った。自分の不登校の経験が生かせるのでは、と考えたのが大学選びのスタートだった。

SSWに必要資格が取れる大学を、全国から探した。通いやすい場所にキャンパスの雰囲気も重視した。高校2年の

頃から、学習塾に通いながら毎日勉強。努力が実り、14年に一般受験で合格した。


高校時代と同様に、決められた時間割がないので気に入っている。いまの研究テーマは、不登校児の健康問題。学校以外でも健診が受けられる仕組みを探っている。博士課程に進み、研究を続けたいと考えている。

入学当初は「また不登校になったら」と不安もあった。「好きなことを好きなだけ学べる。何をやるのも自由。大学って、素晴らしい場所だと思えます。」

(山田健悟)

不登校経て いまは研究テーマに

大阪府立大大学院 石田まりさん



かつて不登校児だった石田まりさん(26)が大阪府立大大学院に通い始めて、3年経った。大学も合わせて7年間。通うのはもう慣れた。自分と同じ不登校児を助けたくて、在学中に不登校児向けの家庭教師や訪問支援も始めた。

北九州市の出身。幼い頃から自分の性に疑問を持っていたり、食べ物の好き嫌いが多かったりして、学校になじめなかった。嫌いな冷凍ミカンや、担任